



碧南ロータリークラブ週報

第2518回例会 平成22年9月29日(水)

● 会長 奥田 雪雄 ● 幹事 新美 宗和 ● 会場監督 (SAA) 伊藤 正幸

2010-2011年度 国際ロータリーのテーマ

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
 ■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
 TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
 ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
 E-mail: info@hekinan-rc.jp



■ 会報委員 新美雅浩・鈴木健三・西脇博正・菅原 優

● 斉 唱

ロータリーソング「手に手つないで」

● 本日のメニュー

季節のお弁当 とんがり帽子

● 本日のお客様

社会人落語家 お好味家喜楽氏



社会人落語家 お好味家喜楽氏

会 長 挨 拶

今日は、万葉集より「変若水（をちみづ）」の話をご紹介します。
 医者としてよく相談を受ける話です。

「我がたもと まかむと思はむ 大夫は 変若水求め 白髪生ひにけり」 娘子（おとめ）

私と寝たいと思う殿方は、若返りの水を探してきなさい。白髪が生えているではありませんか。「変若水(をちみづ)」とは、親愛なる皆様方はお分かりかと思いますが、若返る妙薬、いわゆる精力剤のことです。変若水にまつわる昔話は沢山ございます。皆様をご存じの話をご紹介します。

「桃太郎」、どんぶらこ、どんぶらこ…という話ですが、実際は川上から流れてきた桃を拾ったお婆さんが、お爺さんと一緒にその桃を食べたところ、若い夫婦になってしまいました。その夜は久しぶりに元気になり、やがて子どもが生まれました。その子のこの名は桃太郎。しかし、こんな話は学校では教えられないので、明治の国定教科書で書き換えられてしまいました。

この「娘子」の歌に対して赤麻呂は、

「白髪生ふる ことは思はず 変若水は かにもかくにも 求めて行かむ」 佐伯赤麻呂

白髪が生えているとは思っていないよ。しかし、とにかく変若水は探していきましょう。と反論しています。

昔から不老不死を求める人は多ございますが、年をとって若返る薬が必要かどうかは、その人によって違うと思います。若返りたいと思う人、若いときの希望に胸ふくらませたあの日、あの時をといる人は、それだけで若いと思います。一方で、いらぬと思う人は、時の移ろいを素直に受け止め、今さら、若い人生をやり直さなくてはならないのかという思いが強いお人でしょう。

また、今と同じ境遇になるなら若くなりたくないけれど、若くなって将来がどうなるかわからないのならいやだという人は、現在いい人生を送っている人と言えましょう。

皆様はいかがですか。



奥田雪雄会長

幹事報告

・例会変更等は幹事報告書のとおりです。



新美宗和幹事

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数74名(内出席免除者15名の内出席者9名)出席者62名	
出席対象者 62/67名	出席率 92.54%
欠席者12名(病欠者1名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 新美 孝君 過日のインフォーマルミーティングの懇親会に於いて奥田会長のご配慮で一番若い舞子さんにめんどろ見ていただきました。久しぶりに若返りました。若い人はよいですね。
- 奥田 雪雄君 インフォーマルミーティングへの出席、ありがとうございました。
- 犬塚 敦統君 9月4日(土)横断歩道で車にはねられました。色々気づかせて頂きました。感謝します。
- 木村 徳雄君 父の通夜・葬儀には皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 長田 銃司君 いいことがありました。
- 新美 真司君 平岩統一郎さんにお世話になりました。
- 鶴田 光久君 内まごが生まれました。
- 新美 真司君 } 9月26日(日)碧南市消防団観閲式が無事終わりました。奥田会長はじめ皆様
角谷 信二君 } の出席を賜り誠にありがとうございました。
- 黒田 泰弘君 本日の卓話の講師をご紹介させていただきます。
- 澤 徹君 先日、インフォーマルにて衣浦グランドホテルをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。
- 栗山 章君 今朝のCBCラジオに出演しました。お時間のあるとき、CBCラジオのホームページをご覧ください。

卓話

「落語の楽しみ方」社会人落語家 お好味家喜楽氏

本名 清水雅男(しみずまさお) 昭和25年2月生まれ 碧南高校卒

社会人落語「落語の会」会員 江戸落語

安城市昭林公民館 自主グループ 安笑落語会 講師

安城市西部公民館 自主グループ お喜楽会 講師

安城市作野公民館 お笑い道場 講師

高校時代から自己流で落語を始める。平成8年、45歳で「落語の会」

入会をきっかけに基本からやり直す。同年3月初舞台。平成14年安城市桜井公民館にて「落語入門」という講座の講師となる。この直後より西三河地区のイベント、敬老祝賀会、高齢者教室等の依頼を受けるようになる。特に平成9年より老人ホーム、老人保健施設の慰問に同ようになり現在98回を数える。平成20年1月、朝日新聞「街」に、21年トヨタ自動車企業年金基金「爽やかさん」春号に紹介される。近年、落語教室や講演などもしている。



落語の楽しみ方の基本は、まずは頭を空っぽにして無心になることです。聴き手は落語を楽しもうという気持ちになり、前傾姿勢で落語家のしゃべり方や動き、効果音などから情景を想像することが落語を楽しむコツです。

次回例会案内 平成22年10月13日(水)
卓話「青少年健全育成におけるRYLAセミナー」
地区RYLA委員長 犬束敏彦氏